

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	212	60	65	4.4	4.8	学校	543
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	211	75.7	62.1	67.8	57.0	65.5	2.6	2.7	6.2	5.4	4.6
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.5	11.0	8.0
2年	学校	219	70.7	50.3	64.4	58.1	58.1	4.0	3.6	7.3	2.3	5.1
	大阪市	—										
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	228	69.8	66.0	62.0	75.7	71.5	7.1		6.8		3.2
	大阪市	—		58.3		63.0			3.0		3.3	
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	218	132.9	122.9	176.9	116.2
10月9日	大阪市	—	117.4	116.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	251										
2年 男子	学校	26.19	25.74	40.05	46.47	84.91		7.78	198.26	19.01	50.00
	大阪市	28.65	26.88	43.47	51.81	80.13		8.06	195.07	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.42	21.89	46.17	43.70	54.70		9.35	168.58	11.41	48.10
	大阪市	21.73	23.42	46.31	46.59	53.05		9.03	166.78	12.19	48.11
	全国	23.13	22.68	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

チャレンジテスト(3年生)

【国語】

○結果の概要

- ・大阪府の平均点が64.2点であるのに対し、本校の平均点は75.7点であった。本校では他教科も大阪府の平均点を10点以上15点未満上回っている。ただ、他教科の大阪府の平均点はいずれも40年代後半から50年代前半と比較的低いなかで、国語の大阪府の平均点は他教科よりも10～20点程度高いにもかかわらず、本校ではそれをさらに11.5点も上回る結果となった。
- ・観点別に見ると、大阪府の知識・技能の平均点が35.3点なのに対して本校の平均点は41.8点であった。また、大阪府の思考・判断・表現の平均点が41.7点なのに対して本校の平均点は50.5点であった。(1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の平均点を合計した値が、実際の平均点と一致しない。)
- ・問題の形式別に見ると、大阪府の選択式、短答式、記述式の平均点がそれぞれ36.2点、21.2点、6.7点なのに対して、本校の平均点はそれぞれ41.3点、25.9点、8.5点であった。

○成果と今後取り組むべき課題

〈成果〉

- ・上記の通り、国語では、本校は大阪府の平均を11.5点も上回る結果となった。これは大きな成果である。

〈今後取り組むべき課題〉

- ・国語の学力を向上させるために、日頃から漢字テストを定期的に行い、教材研究を重ねた授業プリントやICT教材を活用した授業の中で、記述の練習をしたり、グループワークを通して生徒の意見交流を行ったりして、基礎知識の定着を図ると同時に、生徒同士の交流を通して学びを深めている。これらの成果が発揮されたといえる。
- ・ただし、設問別の正答率に着目すると、1問だけではあるが、返り点や送り仮名など漢文の訓読に必要な基礎的な事項について理解しているかを問う問題のみ、大阪府平均の正答率が81.3%であるのに対して、本校の正答率は80.6%であり、全体的に正答率が高い問題ではあり、差もわずか0.7%ではあるものの下回っていた。無回答率に関しては、1問のみ、大阪府平均と同じ問題があったものの、後はすべて大阪府平均よりも低い無回答率となっている。今後も、定期的な漢字小テストの実施、より一層の教材研究を重ねた授業プリントやICT教材の活用、記述の機会の提供、意見交流などを通して、たゆまぬ努力を重ねて学力の向上に努めると同時に、知識一辺倒の授業になることのないように、生徒の心をひきつけて、教員も生徒も楽しみながら学習を進めたい。

【数学】

○結果の概要

- 大阪府の平均点が53.9点に足して本校の平均点は67.8点(+13.9点)であった。
- また、無回答率は、大阪府12.1%に対して、本校は6.2%であった。設問ごとの正答率を見ても、大阪府平均をすべて上回る結果となった。

○成果と今後取り組むべき課題

〈成果〉

- 過去問題を何度も解くことにより、問題傾向を知り、自分の苦手な単元を把握することによって、大阪府平均を大きく上回る結果を出すことができた。

〈今後取り組むべき課題〉

- 関係を表す式を立てる問題を苦手とする生徒が多く、無回答率も上がっている。
- また、わからない問題はあきらめてしまう生徒が多くみられるので、根気強く問題に取り組む力と自分の言葉で説明をする力を身に付けられるように授業の工夫していきたい。
- 平均より少し下の層を上げるために、習熟度別授業などを活用して基礎学力の強化を行う。一斉授業でも、グループワークなどを積極的に取り入れ、基礎基本の定着を図っていく。

【社会】

○結果の概要

- ・大阪府平均51.2%に対し、学校平均が62.1%となり、10.9ポイント上回るという結果であった。
- ・地理/歴史の分野別に見ても、選択式/短答式/記述式の問題形式別に見ても、すべて大阪府平均を上回ることができた。

○成果と今後取り組むべき課題

〈成果〉

- 大阪府平均を大きく上回ることができたこと、どの分野・問題形式においても高い正答率であったことが成果である。無回答率についても、大阪府平均が6.5%に対して、学校平均は2.7%であったため、多くの生徒が粘り強く問題に向き合っていることがうかがえる。

- 設問別集計結果においては、正答率が80%を上回る設問が9問もあり、これまでの授業で基本的な内容は、多くの生徒が習得できていることがわかる。正答率が大阪府平均を大きく上回っていた設問は、地理的分野では「北海道の漁業に関するグラフの読み取り」(+18.6)、歴史的分野では「不平等条約改正の過程で起こったできごとの並べ替え」(+16.1)であった。これまでの授業で、地理的分野ではさまざまなグラフや資料を活用することで資料活用能力を身につけ、歴史的分野においては、できごとの流れや背景を整理してきたことの成果であると考えられる。

〈今後取り組むべき課題〉

- 昨年度実施のチャレンジテスト(大阪府平均+15.6)と比較すると、今年度のチャレンジテストの方が大阪府平均との差が小さくなっていることがわかる。地理的分

令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

全国学力学習状況調査

国語

〈結果の概要〉

- ・平均正答率は、全国54.3%、大阪府52%、本校60%であり全国、大阪府を上回っていた。
- ・分類・区分別の正答率は、全ての項目で全国・大阪府を上回っていた。
- ・変換した漢字として適切なものを選択する」問題の正答率は全国35.2%、大阪府35.2%、本校35.5%であり大差なかった。
- ・特に、分類「思考力、判断力、表現力等」の区分「B書くこと」の項目では、全国52.8%、大阪府50.5%、本校60.3%と、大阪府平均値より9.8ポイント上回っていた。
- ・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかをみる」問題の正答率は、全国31.0%、大阪府27.8%、本校41.2%であり全国平均より10ポイント上回っていた。
- ・無解答率については、14問中7問では、本校は0%であった。しかし「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」記述式の問題では、全国平均28.1%、大阪府30.6%、本校19%。また「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」短答式の問題では、全国平均33.5%、大阪府33.2%、本校20.4%であった。

〈成果と今後取り組むべき課題〉

(成果)

・授業のワークシートに、「自分の考え」や「調べ学習の内容」をまとめる設問を増やし、またそれを発表し合う機会を増やした結果、記述問題への苦手意識が薄れたことが、今回、分類「思考力、判断力、表現力等」の区分「B書くこと」の項目の正答率が大きく上回ったと考えられる。

(今後取り組むべき課題)

・「変換した漢字として適切なものを選択する」問題の正答率は全国35.2%、大阪府35.2%、本校35.5%であり大差なかった。中1年時より、小学校からの漢字復習の一環として毎週の漢字小テストを行ってきたが効果が表れていない。方法・内容を変えるか再考が必要だと考える。

数学

〈結果の概要〉

全国の平均正答率が48.3%に対し、本校は65%と大きく上回る結果であった。
15問の解答数に対し、本校の平均正答者数が9.7問で、全国の7.2問を上回り、11問以上の正解者数が多かった。

〈成果と今後取り組むべき課題〉

(成果)

どの単元でも全国平均をすべて上回り、無回答率も低く、説明や理由を述べる問題にも取り組める生徒が増えている。

(課題)

全国の平均正答率と比べたとき、本校はデータの活用分野を苦手とする生徒が多いことがわかり、資料の整理や箱ひげ図の活用、分布の様子を調べ説明するなどの練習問題を行う必要がある。

全体の平均正答数をさらに上げるためには、正答数が5問以下である生徒の力を伸ばしていく必要があるので、平均より下位層にあった課題に取り組む指導をしていく。

理科

〈結果の概要〉

今回理科では、生徒が一人一台学習者用端末で受験し、個人で出題される問題が異なる仕組みの学力テストを受けた。日頃から学習者用端末を授業で活用し、デジタルドリルにも積極的に取り組んでいたことで、比較的スムーズに解答することができた。

結果はIRT判定で、全国平均正答数が2.9、大阪府平均が2.7に対し、董中学校3.1となった。また、無回答者は、全国1.8%、大阪府2.5%、董中学校1.1%であり、問題に取り組む姿勢の高さが伺えた。分布グラフでは、パーセンタイル値が75-90%以上の値が、他と比較して高いことより、中間層～上位層の学力の高さが結果となって表れている。

〈成果と今後取り組むべき課題〉

(成果)

・IRTバンド集計値の1の層が、全国と比較した場合は約半分、大阪府と比較した場合は1/3となっていることと、無回答率が低かったより、学力の低い層も、なんとか答えようとする前向きな姿勢が見られた。IRTバンド値の4や5の層も高いことより、家庭学習で取り組んでいることや、日頃からデジタルドリルやパソコンでの課題に慣れ、基本的な問題から応用に発展させようとする思考力も身につけていると感じられる。

・生徒質問紙の「理科の勉強は好きですか」「理科の授業の内容はよくわかりますか」「理科の授業では観察や実験をよく行っていますか」の項目が全国や大阪府の平均値を大きく上回っていたので、今後も引き続き授業展開や実験の工夫、を教材研究していきたい。

(課題)

・今回の理科の調査は、学習者用端末を用いて、生徒によってランダムな出題の形式だったので、全体を通して、どの単元のどの問題が苦手だったのかこちらが結果から把握することができなかった。振り返りが必要な分野がわからないため、全体的に観察する力や記述で表現すること、計算問題に関しての思考力やグラフを読み取る力などを、引き続き一つ一つ丁寧に指導し、「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか」の肯定的意見が増えるように、日常生活と結び付けた授業展開を考えていきたい。

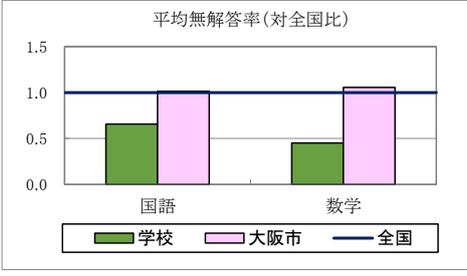
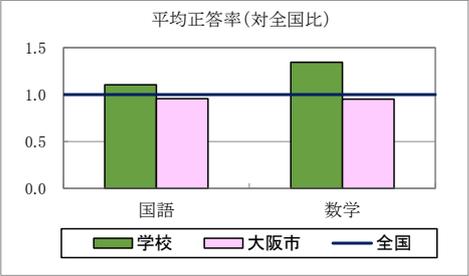
令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	60	65
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.4	4.8
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

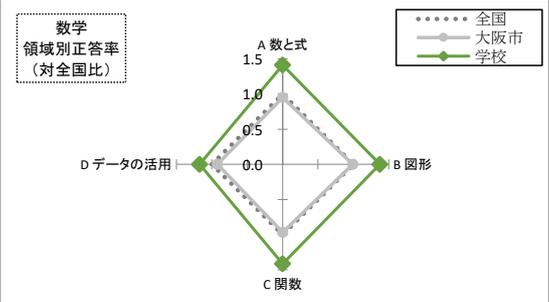
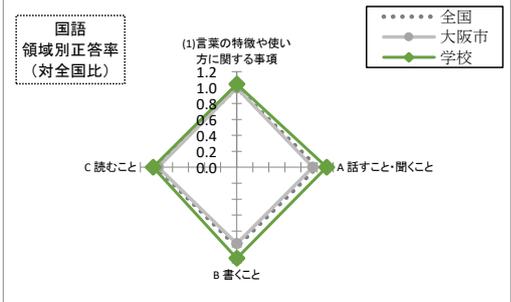
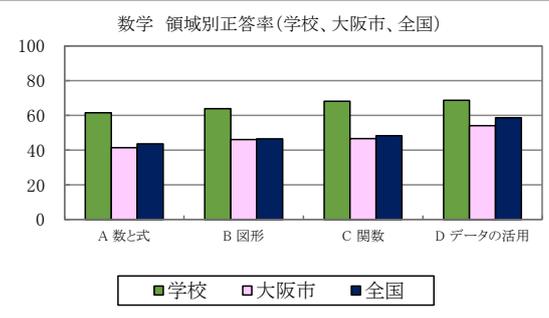
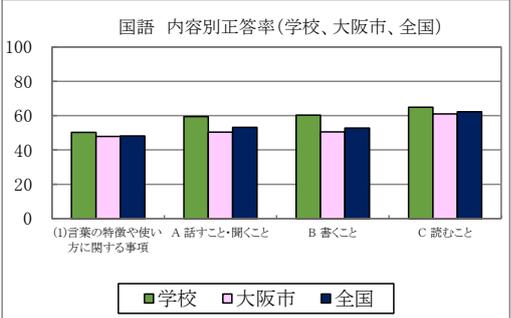


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	50.2	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	59.5	50.4	53.2
B 書くこと	5	60.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	64.9	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	61.5	41.4	43.5
B 図形	4	63.9	46.1	46.5
C 関数	3	68.2	46.6	48.2
D データの活用	3	68.7	54.0	58.6

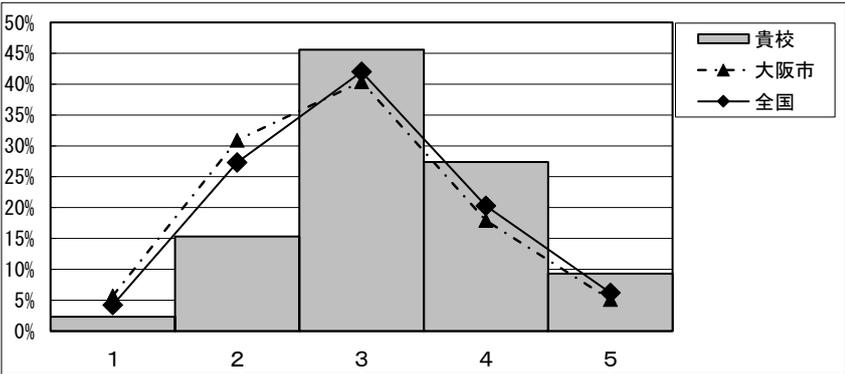
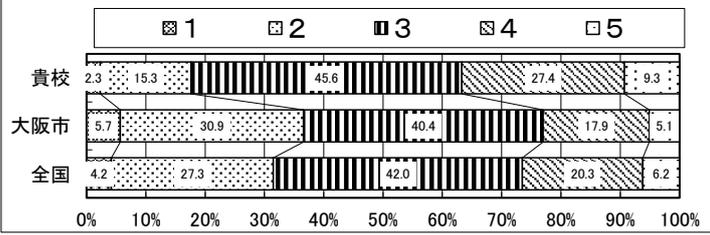


令和7年度 大阪市立葦中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	543
大阪市	489
全国	503



令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

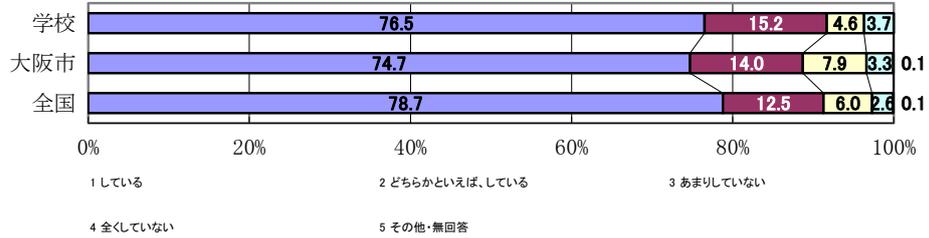
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

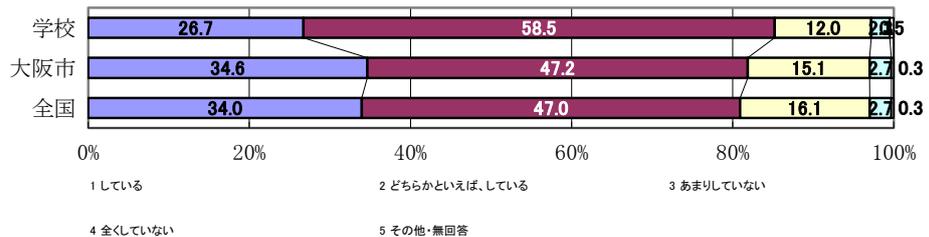
1

朝食を毎日食べていますか



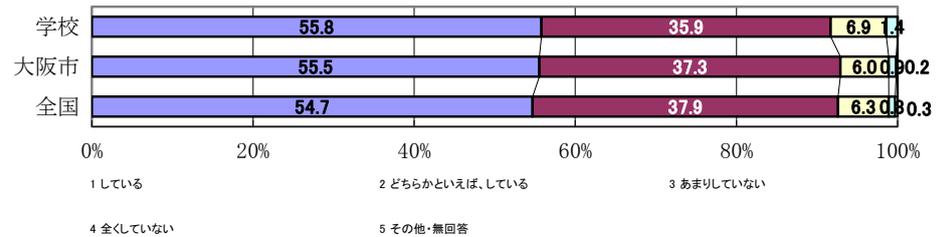
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



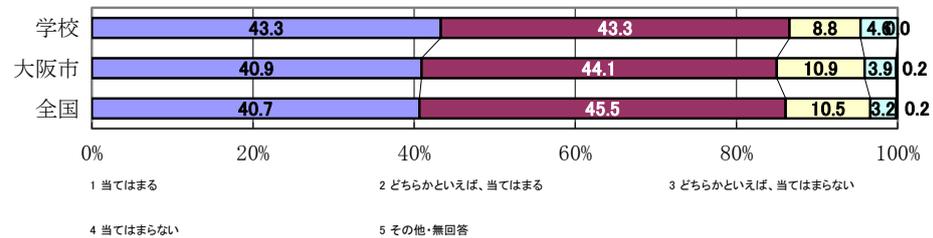
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



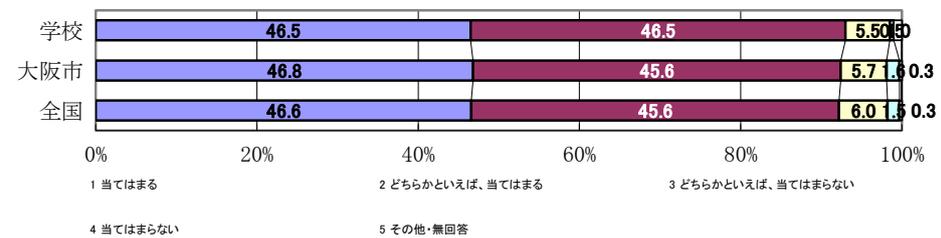
5

自分には、よいところがあると思いますか



6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



令和7年度 大阪市立董中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



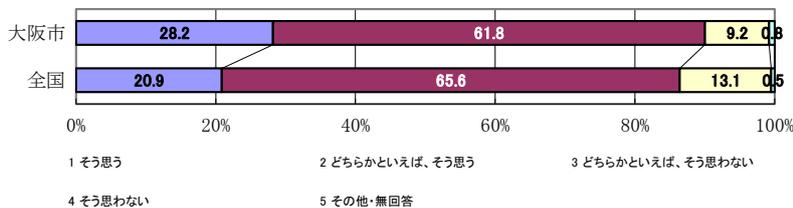
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

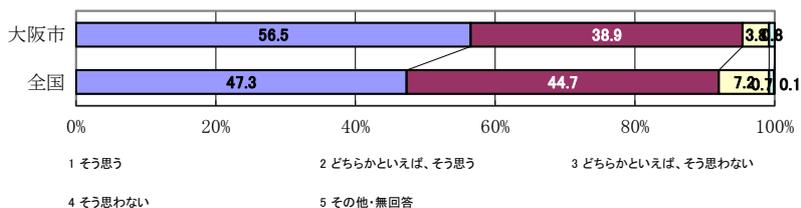
学校 「そう思う」を選択



8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

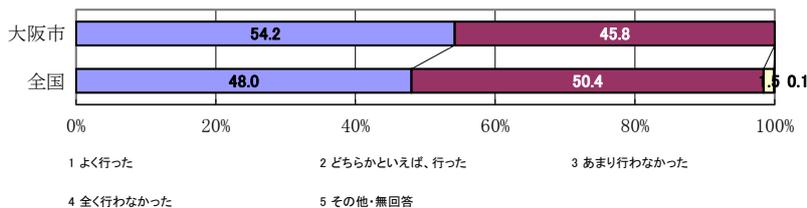
学校 「そう思う」を選択



9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

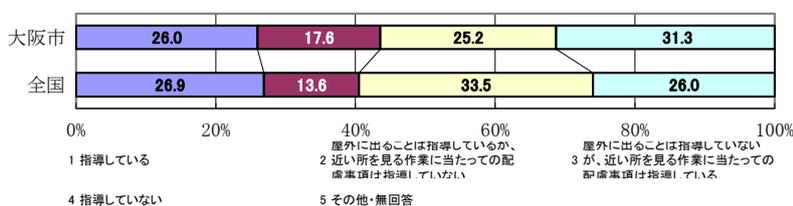
学校 「よく行った」を選択



10

近視の予防の手段として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項(対象から30cm以上目を離す、30分に1回目を)

学校 「屋外に出ることは指導しているが、近い所を見る作業に当たっての配慮事項は指導」



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「一部取り入れている」を選択

